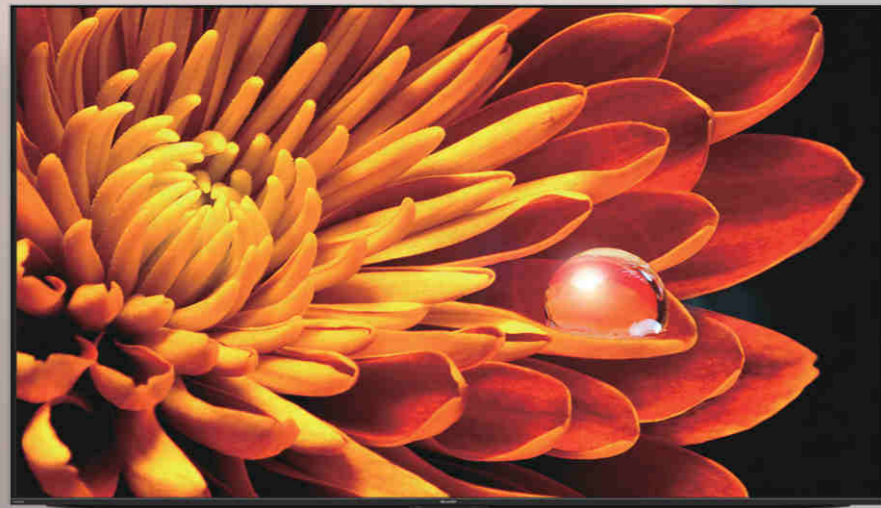


テレビの可能性を広げる シャープの挑戦！ アクオス“XLED”は 明暗どちらも描く

明るい環境では色鮮やかで見やすく、暗い環境ではコントラスト豊かな映像を。リビングでテレビ番組を見るにも、明かりを落として映画を楽しむシアター用途にもどちらにも使える「mini LED搭載テレビ」。この分野を牽引するシャープの取り組みを折原一也が解説します。



4K液晶テレビ

SHARP

EP1ライン



金賞
※4T-C70EP1
4T-C60EP1



企画賞
＜受賞理由＞

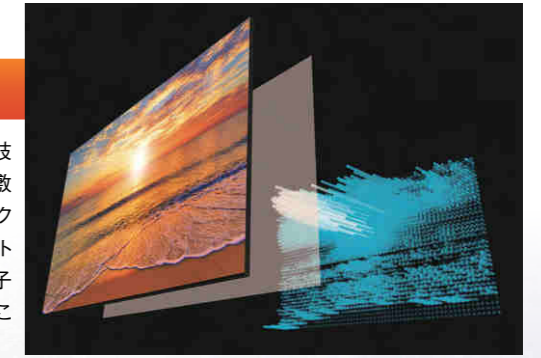
従来比72倍ものバックライトを高密度に敷き詰めたmini LEDテレビの開発に対して

YOPEN <75V型/70V型/65V型/60V型/55V型>

SPEC ●チューナー：BS 4K・110度CSデジタル4K×2、地上デジタル×3、BS・110度CSデジタル×3 ●パネル方式：液晶 ●画素数：3840×2160 ●音声実用最大出力：85W ●HDMI：4系統 ●外形寸法：1442W×896H×304Dmm(65V型/スタンド含む) ●質量：約38.5kg(65V型/スタンド含む)

高画質技術「XLED」

“XLED”EP1ラインには、シャープ独自のディスプレイ技術が搭載されています。従来比72倍もの高密度に敷き詰めたmini LEDを微細なエリアごとに制御する「アクティブmini LED駆動」によって明暗を描きコントラスト豊かな映像を実現するほか、ナノサイズの半導体粒子で光波長変換を行う量子ドットシートも新たに開発することで色の再現性を従来比約20%拡大しています。



「シャープ独自」が満載、先進的なmini LED

VGP審査員 折原一也

VGP2023 SUMMERの部門賞で「金賞」に輝いたシャープAQUOS“XLED”「EP1」ライン。本機が支持される理由は、4K液晶テレビの画質を左右する「ディスプレイ技術」と「画像処理エンジン技術」にシャープ独自のノウハウを投入して、画質面での差別化に成功していることにあります。

たとえば、EP1ラインには「アクティブmini LED駆動」技術が採用されています。市場には数多くのmini LED搭載テレビが存在しますが、それぞれにmini LEDバックライトを搭載する数、エリア分割数異なることをご存知でしょうか？ EP1ラインは、mini LEDで画面内のバックライトの数を従来比72倍にまで増強。mini LEDバックライトの高精度化のもう一つの争点である駆動精度も、画面エリアを1000以上に分割制御する超多分割エリア駆動を実現。輝度ピークを3倍に引き上げ、mini LEDバックライトの性能で差別化を図っています。

ディスプレイ関連技術はこれだけではありません。広色域を実現する量子ドットシートに独自の新材料を採用することで、赤色の色域を拡大。これはEP1ラインのパネル性能に合わせてカスタムされたもの

です。ディスプレイには映り込みに対する低反射を実現する“N-Blackパネル”も採用と、多方面に自社技術を投入しています。

画質処理エンジン技術には、新開発のAI高画質プロセッサ「Medalist S4X」エンジンを採用しています。テレビが置かれた部屋の照明や窓からの光を感知する“環境センシング”と作品ジャンルなどの組み合わせで、常に最適な画質に自動でチューニングする技術を投入しています。

「ディスプレイ技術」と「画像処理エンジン技術」を自社開発で固めることで、画質のすべてを思い通りにコントロール。特にmini LEDバックライトの特長である「光の輝き」や「コントラスト」「広色域」を余すことなく再現できるテレビ作りができるという意味で、シャープは有利な立場にあるのです。

実際に、EP1ラインの映像美を堪能できたシーンをご紹介します。まず、映画「マリアンヌ」冒頭のシーン。夜の街の艶感のある色調の再現や、照明のハイライトまで余すことなく再現する、余裕あるコントラスト。従来、有機ELテレビ優位といわれていたシネマ画質の再現

性で勝るとも劣らない表現が、液晶テレビで遂に実現できたのです。

ビデオ素材の視聴では、イタリアの高級スポーツカー、フェラーリの赤色の再現が印象的でした。ロッソ・コルサとも呼ばれるフェラーリの車体カラーは、一般的なビデオ撮影の色域範囲外のためテレビによる再現が難しい色です。しかし、EP1ラインではYouTubeで公開されていたネット動画を視聴しても、実際に用意したサンプルのフェラーリレッドに近い、深みのある印象的な赤色を再現してくれました。こうした「実物感」の領域まで踏み込む色再現は、まさにEP1ラインの「ディスプレイ技術」と「画像処理エンジン技術」の結晶です。

それからEP1ラインは音質面においても、高く評価されるべきテレビです。「Around Speaker System Plus(ARSS+)」は4ウェイ11スピーカー、総合出力85W。上部にハイトスピーカーを斜め前向き(20度)配置、アンダースピーカーはフロントオープン構造(グリルなし)にトゥイターも前向き搭載と、テレビ画面を取り囲むように合計10個のスピーカー、そして背面に低音スピーカー1個を搭載しています。実際にサウンドを体験すると「映像と音の一体感」に圧倒されるはずですよ。

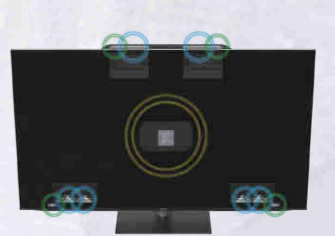
mini LEDバックライト搭載の4K液晶テレビを先導するシャープAQUOS“XLED”EP1ライン。その高画質と高音質をぜひ、体験してみてください。

新・AI映像エンジン「Medalist S4X」



環境センシングとAIプロセッサを採用した、シャープ独自の新しい映像エンジン「Medalist S4X」を搭載。視聴環境の明るさを感知し、100万通り以上の映像パターンを学習したAIの情報を掛け合わせて、自動的に映像の色彩や明暗・精細感などを調整する映像モード「AIオート」も採用されています。

立体音響「ARSS+」



前面傾斜構造のハイトスピーカーを含む、全11個のスピーカーを最大出力85Wで駆動するサウンドシステムを搭載しています。メインスピーカーとサブウーファーを強化、中低域の表現力を向上させた「パワーボイススピーカー」の効果も相まって、臨場感あふれるサウンドが楽しめます。ドルビーアトモスの立体音響にも対応。